

会議録

会議名	山形市第1層生活支援体制整備協議体 (テーマ：高齢者等の孤立や事故防止に向けた多様な主体による日常的見守りの促進)
日時	令和5年3月17日(金) 10:00～11:45
場所	山形市役所11階大会議室
報告者	長寿支援課 地域包括支援係 主任 鈴木 夏月
出席者	訪宅事業者(宅配クック123、生活協同組合共立社、山形新聞社、佐川急便、山形市上下水道部業務課、山形県LPガス協会)、山形警察署、第1層生活支援コーディネーター、第2層生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、福祉まると相談員、おれんじサポートチーム、山形市長寿支援課

内容
1 開会
2 あいさつ
3 自己紹介
4 山形市第1層生活支援体制整備協議体及び山形市の現状について 【資料1】
5 報告・協議
(1) 高齢者等見守りネットワークの令和4年度の実施状況について 【資料2、資料3、参考資料1・2】
(2) 参画事業者の拡大について 【資料4】
(3) 今後の取組について 【資料5、資料6-1・6-2、資料7、当日資料】
6 閉会

1 開会

2 あいさつ(長寿支援課 松浦次長)

3 自己紹介(名簿順)

4 山形市第1層生活支援体制整備協議体及び山形市の現状について（長寿支援課 鈴木係長）

資料1に基づき、会議体の位置づけや目的、山形市の現状について説明。

5 報告・意見交換（ファシリテーター：第1層生活支援コーディネーター）

（1）高齢者等見守りネットワークの令和4年度 of 取組状況について（長寿支援課 鈴木係長）

資料2、資料3、参考資料1・2に基づく報告の後、意見交換を行った。

山形警察署

新聞配達員から通報があり現場に向かったところ、奥まったところにある家で、スムーズにたどり着けなかったことがある。配達員は現場に残ることができないのはしょうがないと思うが、情報伝達を確実にを行う必要性を感じた事例であった。

また、認知症徘徊者を保護した際、身元や連絡先を確認できるものが何もなく、警察で長時間保護できる体制がないことに課題を感じている。医療機関等に対応をお願いできないものか。

第1層生活支援コーディネーター

認知症の方の対応では、おれんじサポートチームが関わることがあると思うが、どのように捉えているか。

おれんじサポートチームこころ

急な対応要請というところだと、包括の方が感じていることは多いのではないか。

地域包括支援センター

朝の4時に警察から電話が来たことがあった。保護などの対応はこちらでも難しいので、医療機関や特養に加算を設けるなどして受け入れ体制の整備を考えないといけないのではないか。

おれんじサポートチームこころ

以前、地域包括支援センターとして対応したもので、夜に警察から物置を壊している人を保護したと連絡があり、緊急のショートステイで対応できないものかと思ったことがあった。

地域包括支援センター

私の場合は、認知症疑い等で身元証明が難しいと推測される方の持ち物に名刺を忍ばせておくようにしている。

山形市長寿支援課

個人の特定ができていると支援につなげやすい。制度的にも「おかえり・見守り事前登録」「緊急通報システム」等があるのでご活用いただきたい。

第1層生活支援コーディネーター

介護保険事業所連絡会で提案できることはないか。

基幹型地域包括支援センター

事業所連絡会でも共有・連携を図っているため、各事業所に問い合わせいただければ適切な機関へつなぐことができる。

第1層生活支援コーディネーター

福祉施設等連絡会としての動きは何かあるだろうか。

第2層生活支援コーディネーター

先日、「身寄りなし問題」をテーマにした研修が行われた。それぞれの事業所で身寄りのない方を

見かけたら正規の相談窓口へ情報連携するという別自治体の仕組みを知った。山形市もそういった体制ができればと思う。

第1層生活支援コーディネーター

企業の取組について宅配クック 123 ではどうか。

宅配クック 123

お客様はケアマネジャーがついている方が多いので、そのような方についてはケアマネジャーの連絡先も把握し、何かあったら連絡している。やはり対応が難しいのは、緊急連絡先になる家族などがいない方。連絡先がわからないと確認のしようがない。入院や搬送されている可能性を考えると医療系との連携も必要だと思う。当社は正月の三が日のみ休みをいただいているが、休みの間に亡くなっていたケースがあった。家族から早期発見できなかったことを責められ、辛い思いだった。

第1層生活支援コーディネーター

医療機関とのネットワークに課題がある。警察でも1件1件病院に電話で確認してくれている実態がある。

事業者における配達員への周知について生活協同組合共立社ではどのような状況か。

生活協同組合共立社

資料7（見守りチェックツール）については個人宅配の職員が持ち歩いている。ラミネート加工してトラックに貼ってあれば、職員の入れ替わり時に失くしたり、忘れていたりすることが減るので有効だと考えている。

また、移動スーパーのドライバーについても、個人宅まで物を運ぶこともあるので、足の不自由な方に周知できるという点で有効であると思う。

訪問というところからは外れるが、店舗の終了時、外に高齢者が1人であることがある。そのようなケースもあったため、部署全体での共有も必要だと感じている。

第1層生活支援コーディネーター

その点に関して、資料3の事例について山形新聞はどうか。

山形新聞社

私たちは早朝3時から6時が配達時間である。郵便物がたまっていることや、電気がつけっぱなしであるなど、配達員が気付きやすい点はある。そのような場合、市に連絡できる時間帯ではないため、警察に連絡している。

独自の取組として、10年以上取り組んでいる「みまわりさん」というものがあるため、スタッフにも見守りの意識は広がっていると思う。県内の店舗間で「みまわりさん」の事例について、毎月共有されている。また、事例は記事として紙面に載せており、住民への周知・啓発も行っている。

(2) 参画事業者の拡大について（長寿支援課 鈴木係長）

資料4に基づく説明及び報告の後、意見交換を行った。

山形県LPガス協会

1月に説明をいただき、この取組に参加した。自動検針が進んでいるため、対面する機会が減っていくことが問題である。一方で、機器の保安機能が向上しており、異常をすばやく感知して通報につながるができるという面もある。ガスの配送や設置、点検時などは訪問するため、協力できるこ

とがあればと思う。

協会には県内400ほどの事業所が加盟しているが、現場の声はなかなか拾えていない。

第1層生活支援コーディネーター

電力会社も電子化が進んでおり、検針員が訪問することもなくなってしまったため、本取組について協力できる場面はなさそうであるとの返答であった。

山形市上下水道部業務課

水道の検針は今もアナログで、検針員が行っている。水道の使用量が異常だった方については、長寿支援課へ連絡し、その後地域包括支援センターから対応してもらったこともある。水道部から他部署への情報提供は難しいところもあるので、滞納者情報の共有など、ルールづくりしてもらえるとよいと感じる。

山形市長寿支援課

個人情報の壁がある。窓口の紹介などにより、本人に相談を促すことも必要ではないかと思う。

福祉まるごと相談員

滞納情報を知ることによって前に進むことができたケースもあった。生活サポート窓口もあるので、可能であれば周知してもらえるとありがたい。

地域包括支援センター

通報・連絡を受けたその後の支援の問題も考えなければならない。また、時間帯によってはどの機関も十分に対応できないため、そこが課題である。地域包括支援センターになんでも相談に来られても困るのが正直なところ。

(3) 今後の取組について（長寿支援課 鈴木係長）

資料5～資料7、当日資料に基づき説明した後、意見交換を行った。

第1層生活支援コーディネーター

参画事業所を新たに増やすというよりも、今やっている「命を守る見守り」の定着と、現段階で参画いただいている事業者の配達員一人一人や市民への周知に力を入れていきたいと考えている。

地域包括支援センター

事業所によってはうまく説明できず共有できていないところもあるかもしれない。企業へ丸投げではなく、こちらとしても協力していきたい。

佐川急便

本日は代理で出席することになったが、この取組を初めて知った。ドライバーが利用者と接触する機会は減っているが、資料7を常時携帯しておくとするれば、名刺サイズだと有効かと思う。

第1層生活支援コーディネーター

居宅介護支援事業所にも周知しているので、心配な方の情報共有など、ケアマネジャーや地域の支店との連携もあり得るのではないかと思う。

地域との関わりという点で、第2層生活支援コーディネーターはどうか。

第2層生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーターは、地区の会議やサロン活動でこの取組を周知していける。繰り返し説明していくことで浸透させられるのではないかと思う。

6 その他

山形市上下水道部業務課

水道料金を払いたいけどお金がない場合、生活サポート相談窓口と連携していることも知っていたらと思う。また、滞納が続くなどで水道を止める前には、止めてよいのか検討はしている。

生活協同組合共立社

資料6-1（周知用チラシ）を使いたいのだがデータでもらえるのか。

山形市長寿支援課

現行の利用者から市民の皆様へ対象を広げているので、使える。確定した修正版は後日提供する。

山形市警察署

本人が入院しているかどうかわからないとき、警察に連絡をもらえば消防と連携して救急搬送の記録などをお調べするもできる。

これからの季節、家の中で亡くなっている場合には、腐敗臭がしてくるほか、窓に大きなハエがくっ付いていることがあるので、ポイントとしてご承知いただければ。

第2層生活支援コーディネーター

状況把握の方法・事例として、本人の同意があれば、入院したときに医療連携室から近所の人に教えてくれたということがあったため、この場で紹介させていただく。

7 閉会